

御発言者	種類	内容	反映先
織笠委員	事前意見	マッチングシステム登録者数の直近の伸び率が低調な理由として、婚活イベントの応募者とシステム登録者の間に大きな乖離があると考えており、結婚を望んでいる人に対してターゲット層ごとの周知方法のほか、入会金の負担軽減策や入会時の面談方法など取組を強化する必要がある。	1
宮腰委員	当日意見	結婚支援のターゲットとなる年齢層に対してアンケートを実施して、より効果的なデータを得たほうが結婚支援施策の実態がどう評価されているのかわかるのではないかな。	2
重委員	当日意見	単純にAIのマッチングも大事だが、加えてコーディネーターがサポートを行い、もうワンプッシュすることは大事な取組である。	3
織笠委員	当日意見	マッチングシステムは結婚だけではなく、その先の出産につながることも目的の一つであることから、八戸市内で出産や子育てをする場合にはこんな恩恵を受けられるというような、先を見据えた登録することによる旨味を出したほうが良いと思う。	4
織笠委員	事前意見	子どもが屋内で遊べる施設が少なく、どこに集まればよいかわからない状況であることから、民間の集客力を活かした交流機会の創出やベビーマッサージやベビーサインなど個人で生業にしている方の力を借りてもよいと思う。	5
織笠委員	事前質問	大人からの寄附による飲食店を活用したこども食堂の運営は、民間企業と協力しながら市が率先して普及促進、ルール化を図った方がよいと思う。	6
宮腰委員	当日意見	こどもはっちや児童科学館などの施設は充実しているが、地域による課題があると感じている。また、市民アンケートの結果から一番肝心な層である女性の若年層の評価が低くなっていることから、ターゲットとなる世代に対する取組が必要である。	7
織笠委員	事前意見	三社大祭やえんぶりなど郷土芸能が盛んであるが、地域によってその熱に差があると感じている。山車は住んでいる地域や知り合いの有無等により参加が叶わない子どもたちもいる中で、離れた学校の生徒にも門戸を広げる活動を強化する必要がある。	8
重委員	当日意見	三社大祭の参加が叶わない子どもがいる中で、案内チラシなどはつながる仕組みができるような記載内容にしていきたい。	9
小笠原委員	当日意見	三社大祭の案内チラシは児童へのチラシ配布だけではなく、親が確認できるメール等を活用したほうが確認しやすい。	9
中村委員	当日意見	三社大祭へのこどもの参加を促すために、案内チラシだけではなく、地域とコミュニケーションをとりながら幅広く施策を考えていきたい。	10
重委員	当日意見	三社大祭の案内チラシについて、配布先を幼稚園や保育園等に変えることで、小さい頃から親御さんが直接来て目にする場所に配布する方が効果的と思うので検討していきたい。	11
峯委員	当日意見	三社大祭の参加は子どもだけではなく親も一緒に参加することから、親へのサポートも一緒に考えていく必要がある。	12
重委員	当日意見	学校の冷房設備について、学校は学びの場だけではなく避難所や防災の視点もあることから、子どもたちが学びやすい環境の整備という部分に寄り添ってほしい。	13

御発言者	種類	内容	反映先
宮腰委員	当日意見	単純に奨学金を支援するだけではなく、他の取組と柔軟に組み合わせることで、市の施策を達成する支援につながるのではないかと。	14
織笠委員	当日意見	個人的に奨学金に対する考え方が安易な大学生が多い印象があるので、奨学金に対する考え方について教育していくことが大事である。	15
織笠委員	事前意見	地区公民館を核とした地域コミュニティ活動促進のために、公民館の利用制限を緩和して様々なイベントを開催できるようにしてはどうか。合わせて、若い人が気軽に利用しやすい環境を作っていく必要がある。	16
田頭委員	当日意見	大学ではボランティアが単位になっている状況であることから、八戸市でも地元のボランティアをすることにより、単位取得という目的のほか、暮らしたい、定住したいと思える機会になると思うので、その点に関する指標があればよいと思う。	17,60
織笠委員	当日意見	レスリング競技についてオリンピック4連覇した選手がいるにも関わらず、スケートの普及活動に比べて既存選手の強化や道路整備等への投資が目立ち、今の子どもがレスリングをやりたいと思う環境の整備、普及活動が不足していると感じる。	18

御発言者	種類	内容	反映先
織笠委員	当日質問	漁獲量が減少しているのであれば、今あるものの価値向上やレアリティを追及していく動きが必要であると思う。取れない中でもブランド化を継続して行うべきである。	19
根城委員	当日質問	漁業者、事業者が少なくなってきたが、新しく事業を始めるとなると敷居が高いため、これからも減少していく流れだと思う。残っていく事業者支援の取組が必要である。	20
織笠委員	事前質問	合宿支援について近隣自治体と連携を図りながら、特定の競技に絞って行う必要がある。長期合宿となると宿泊店や飲食店等の地域経済の活性化ではなく、スポーツ活動の普及にもつながるため、非常に重要と感じていることから、プロスポーツや学生スポーツの合宿地のPR活動に関して協議していくべきである。	21
重委員	当日質問	観光・スポーツでの誘致は強みであると感じているが、他の地域も年々人が減ってきている中で、スポーツ・観光側からアプローチをすることで八戸に来るという流れを作り、太客を増やす取組が重要である。また、気候も変化してきていて、気温が高くなってくると北の方に動くという流れは可能性があるのも、より良い取組を絞りながら観光側とスポーツ側でコミュニケーション・連携をとっていくことは重要である。	22
織笠委員	当日質問	海外向けの販路拡大は非常に重要なポイントであり、青森市では銀行や地元企業とタッグを組んで海外事業の展開や経営塾の企画をしていることから、八戸市でも連携した取組を行っていくべきである。	23
重委員	当日質問	中小企業への支援で補助金も大事であるが、再エネや省エネ導入の方が長期的に経営できるのではないかと考える。コーディネーターを活用しながら、企業のマインドをあげていく取組をするべきではないか。	24
中村委員	当日質問	バス事業者は人手不足であり、市と民間で取り合いになっている。交通インフラを減らさないようにコーディネートをお願いしたい。	25
小笠原委員	当日質問	地域の中小企業で人が取れない中で、IT導入の支援やマッチングについて取組を展開していくべき。また、何が課題でその課題に対してDXをどう活用していくかについてサポートできる体制づくりを検討いただきたい。	26
織笠委員	当日質問	IT導入補助金や人材育成補助金など補助金は数多あるが、補助金をとってきて有効に活用することが重要であり、国や県の補助金であっても、補助金に関するコーディネーターを育成することが必要である。	27
峯委員	当日質問	コーディネーターを活用してもそこから報酬が発生する場合や貸付型の返さなければならない補助金が多い。水道代補助の様に返さなくても良い補助金があれば良いと思うが、市内の中小企業が何を望んでいるのか考えていただきたい。	27
重委員	当日質問	教育委員会（学校）側から地域の大人に関わっていく取組を期待したい。地域の大人と子どもや学生が関わる機会があると将来地元に戻ってくるきっかけの一つになる。学生はインターンシップを重要視しており、県外企業は学生にどんどん営業をかけているので、地元企業もインターンシップや営業が必要である。	28
織笠委員	当日質問	インターンについては、会社側の体制が整っておらず学生側はあまり良い印象を抱かないため逆効果になっている。会社を見せることも必要であるが、一つの会社だけではなくその業界の働き方を順番に見ていく体制作りは必要である。	28

御発言者	種類	内容	反映先
宮腰委員	当日質問	大都市圏への転出は大きくなっているが、学生が重要視しているのは賃金と職種である。賃金は地域差が大きいため、学生の説得は難しいが、職種について学生は大企業に関わらずどの企業でも、会社の中で自分が何をするのかイメージができない。地元企業だけで、学生が希望する職種のバリエーションがあるかという点に厳しいが、首都圏の転出をなくすことを目指すのであれば、職種を増やすことが特に若年層の地元定着につながるのではないかと考える。	29
田頭委員	当日質問	首都圏では給料も違う上に家賃補助を出していると聞いたことがある。何かしらの手当がないと今後の流出は続くと思う。地元定着という視点も重要であるが、流入という視点も踏まえた施策展開を期待したい。	30
織笠委員	当日質問	空き家等を若い人たちが集まって交流できるような社宅として活用することで、若い人たちの交流が増えて結婚等のつながりが生まれるとともに、会社で家賃補助を負担することで空き家対策に効果があるのではないかと考える。	31

御発言者	種類	内容	反映先
重委員	事前質問	電動バスなどの積極導入は初期コストが高くても国の有利な補助金の活用が期待される。	32
重委員	事前質問	学校での再生可能エネルギーの導入や断熱化は、単に子どもの学習環境向上だけでなく光熱費の削減、災害時の避難所対策につながるため検討していただきたい。	33
織笠委員	当日質問	消防団員が減少傾向にある原因として、休日等の時間に拘束されることが多いというイメージが先行し、自分の時間や家族の時間を持ちたいという気持ちに対して、消防団員のメリット（地域貢献、充実感、達成感）が上回らないことが挙げられることから、事業内容の見直しも検討したほうが良い。	34
堤委員	当日意見	交通安全共済に関する指標について、現金徴収や町内会加入が厳しい世の中であるにも関わらず今の時代に適さない。何か新たな指標（方法）を検討する必要がある。	35,61
堤委員	当日意見	自転車など様々な交通ルールが厳しくなっている中で、交通安全教室は小学生のみならず、中学生・高校生や大人など上の世代に対しても啓発活動をお願いしたい。	36
織笠委員	当日意見	加入率の指標について、共済保険は今基本的には民間の自動車保険で付帯されており、共済保険の方がパフォーマンスが良いかもしれないが、入る機会の関係で民間に流れている可能性もある。自動車保険と交通災害共済を合算した指標の方が指標として意味があるのではないか。	37,62
堤委員	当日意見	消費生活相談の件数の指標について、相談に一步踏み出せない方も相当数いる中で相談された件数だけではなく、相談に来た方の満足度を諮るべきである。	38,63
織笠委員	当日意見	精密検査の受診率を上げるために、検査費の助成も必要な取組であるが、働く世代に合わせた時間帯での受診など受けない人に対するアプローチの仕方を検討して発信していく必要がある。	39
織笠委員	当日意見	県内３市で献血ルームがないのは八戸市だけであり、お客がくる商業施設に献血できる場所を持って行った方が良いのではないか。	40
峯委員	当日意見	看護学校に行っているのは若い人だけではなく、こどもができて離婚して自分の生活を支えるために学んでいる方も結構いるので修学資金等の援助をもう少し援助してあげてもよいのではないか。	41

御発言者	種類	内容	反映先
織笠委員	当日意見	認知症になると色々な活動ができなくなるので、周りの家族だけではなく本人も元気なうちにサポートする取組を進めていただきたい。	42
織笠委員	事前意見	町内会に入る入らないで特に行政サービスに大差がない中で町内会の価値創出に向けた取組のほか、負担軽減やシステム化を市が助けながら取り組む必要がある。DX化に向けた交付金だけではなく、知識をつけるための勉強会等も必要である。	43
宮腰委員	当日意見	町内会のデジタル化をやりましょうというよりは、デジタル化をするためにどうするのか議論していく必要がある。	43
小笠原委員	当日意見	「コミュニティの振興」の目指す姿に「安定した組織運営基盤を構築させる」が入っていることに違和感があり、入っているからこそ町内会に固執しているように感じる。町内会がなくなると大変なこともあるが、加入率の問題を解決するために違う指標にしたほうが良いと感じる。	44,64
宮腰委員	当日意見	公共交通機関を有利でよい条件で使えることが普及できれば、高齢者ドライバーの免許返納の機会につながることから、もっと多くの方が公共交通機関を使って生活できるような状況になっていくのが望ましい。	45
織笠委員	当日意見	健はちプラス+やシニアはつらつポイントなどのポイント活動をまとめて、市民の生活に還元できるような形を作っていたきたい。	46
織笠委員	事前意見	企業に働きかけ、東南アジア系の方々とコンタクトをとり、そのような方が主体となるイベントを開催することで、市民の目線や在住している方の暮らしやすさも改善すると感じる。	47

御発言者	種類	内容	反映先
織笠委員	当日意見	空き家対策について、所有者である高齢者だけではなく、子世代を巻き込んで巻き込んだアプローチを検討していただきたい。	48
織笠委員	事前意見	下水道事業について、経営を維持するためには料金を５倍、６倍では足りず黒字化するのは不可能であり、長い目で見たとときに若い世代の負担を増やさないためにも、新規の拡張は抑え、既存のものを整備する方がよいと考える。	49
重委員	事前意見	国では輸送量や利用圏域の拡大に資する取組としてサイクルバス・サイクルトレイン導入の手引きをとりまとめており、地域公共交通の経営環境向上策の一つとして検討の余地がある。	50
織笠委員	事前意見	運転手の確保が難しい状況下で、バスの運行は混雑時や利用者の多い路線に絞り、それ以外については、民間の乗り合いタクシーなどを活用し、そちらに助成金を出したほうが維持管理は安く抑えられないか検証していただきたい。	51
重委員	事前意見	新幹線の八戸―東京便数の確保について、便数の設定はＪＲが行うため行政として限界はあると思うが、通過駅にならないよう危機感を持っておくことは極めて重要である。	52
重委員	当日意見	レンタサイクルは気候や地形の問題もあるが、都内をはじめ移動手段も多様化しているので、今後も他都市の状況を参考に新たな移動手段（乗り物）をタイミングを見ながら検討していただきたい。	53

御発言者	種類	内容	反映先
重委員	事前意見	「八戸の鮮魚ブランディングプロジェクト」は首都圏をターゲットにしているが、大阪には県事務所やアンテナショップがあるほか、三沢-伊丹便もあることから、近畿圏も視野に入れていただきたい。	54
宮腰委員	当日意見	デジタル化で保存した文化財等のデータを、市内の産業文化に活かすなど別な形で整備し、活用できるようにしていただきたい。	55
織笠委員	当日意見	八戸市には魅力がたくさんある中で、まったく関係ない移住希望者を呼び込むためには様々なきっかけが必要であることから、そういった取組をもっと発信していく必要がある。	56
小笠原委員	当日意見	市SNSの登録者数を年次で比較していくためには、純増数を指標とした方が良い。また、自己評価理由の部分で記載されている内容が指標とリンクしていた方がわかりやすい。	57,65
田頭委員	当日意見	これまでの移住者数だけではなく、これからの時代は、今後移住を希望している方がどのくらいかわかる指標、動向をとっていくことが大事である。	58,66

御発言者	種類	内容	反映先
堤委員	当日意見	市民アンケートの設計をもう少し考えていただきたい。1つの質問に論点が2つ以上入るのは質問として不適切である。	53